

スーパー過去10年で最高

百貨店 コロナ前の約80%

昨年売上高

日本チェーンストア協会が25日発表した昨年のスーパーの売上高は、前年比2・3%増の13兆2134億円と過去10年で最高となつた。一方で、日本百貨店協会がまとめた全国の売上高は前年より増えたものの、コロナ禍前の2019年比

で約80%の水準。家庭で過ごす「巣ごもり需要」の広がりで、同じ小売業の中でも明暗が分かれている。

スーパーは感染拡大が始まった20年も前年比0・9%増で、2年連続で伸びた。品目別にみると、全体の約7割を占める食料品が同1・9%増。チェーンストア協会によると、オムクリン株の拡大に伴い、今年に入ってからも自宅で食事する内食の需要が手堅いという。ほかの品目は住関連が同2・9%増、衣料品が同1・9%減だった。

百貨店は20年に大きく落ちこみ、45年ぶりの低水準となっていた。21年は5・8%増の4兆4182億円だったが、19年と比べると21・5%も低い。21年は富裕層を中心に高額消費が旺盛で、商品別にみると、美

術・宝飾・貴金属が前年比25・7%増と大きく伸びた。4・7%増の食料品は売上高に占める比率が約3割にとどまる。巣ごもり消費の恩恵は限定的だった。二つの業態の売上高を時期別にみると、感染者が増え局面だった昨年1~2月や8月、百貨店は前年比10~30%ほど落ちた。一方で、同時期のスーパーは悪化した訪日観光客の消費も落ちたままだ。昨年の免税売上高は前年比で約30%減。百貨店はコロナ前に多かつてみると約90%落ちた。

16都県に出たまん延防止等重点措置の対象地域は今後さらに広がる。年初に正月商戦が盛り上がったが、先行きは不透明だ。百貨店協会の安田洋子・専務理事は「顧客接点の拡充など、新たな生活様式にそくした施策で業績回復を目指す」とのコメントを出した。

（佐藤英彬、山下裕志）

あなたも慢性腎臓病（CKD）の予備群かもしれません。

CKDセミナー

オンライン

腎臓は血液中の老廃物を体外に出し、血液をきれいにしてくれる大事な臓器です。この機能が低下すると「慢に病気が進むと命にかかわります。CKDの初期は、自覚症状がなく知らないうちに病気が進行している習慣が深く関わっているため、生活習慣の改善や薬物療法により進行を防ぐことができますが、その重要性がそこで、今回CKDセミナーをオンラインで開催してより多くの方の健康に役立てていただきたいと願って

2月26日（土） 14:00～16:00

第1部 講演

第2部 パネルディスカッション